

# 令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

## 学校の概要

瓜破東小	学校	児童数	40
------	----	-----	----

### 平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	17.53	19.12	29.75	33.95	43.86	9.69	133.79	18.83	48.47
大阪市	15.70	19.17	33.01	38.63	45.42	9.52	148.43	20.76	51.54
全国	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
女子	17.05	14.83	37.37	29.18	28.59	10.39	132.00	11.83	47.06
大阪市	15.40	18.33	37.58	36.86	35.15	9.83	139.41	12.67	52.58
全国	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97

### 結果の概要

測定項目8項目中、男女ともに握力のみが、全国・大阪市を上回る結果であった。体力合計点は男女とも全国・大阪市の結果を下回った。

男子の児童質問調査「運動やスポーツをすることは好きですか」の項目においては、肯定的回答が男子90.5%、女子70%であり、男女ともに全国・大阪市を下回る結果となった。

1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合は男子15%、女子は35.2%であった。また、男子は1週間の総運動時間が420分以上の割合が全体の80%を占めており、女子で1週間の総運動時間が最も多いのは60分～419分の41.2%であった。このことから、男子は全国・大阪市と比較しても運動に対する興味関心が高いことがうかがえる。

「体育の授業は楽しいですか」の項目においては、肯定的回答が男子81%、女子75%である。また「体育の授業では、進んで学習に参加していますか」の項目においては、肯定的回答が男子95.2%、女子90%である。

さらに「どんなときに体育の授業が楽しいと感じますか」の項目において、【できなかったことができるようになったとき】が男子100%、女子95%で最も高かった。

のことから、児童は運動に対する苦手意識はあっても、進んで学習に参加することにより『一つでもできることが増えるようになるのではないか』という期待感をもって体育科学習に取り組んでいるのではないかと考える。

### これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

本校では、昨年度より児童の体力・運動能力向上を図るために、全学年において体育専科教員を中心に複数名で連携し体育科授業を行っている。専科教員がいることで、系統立てた体育科学習が進められており、どの学年の児童も体育科の学習を楽しみにしていることが各種アンケート等からも見取れている。学習環境が整備された中で学習をスタートできることから活動時間が十分に確保できている点や、児童の発達段階に応じた体育カードを適宜活用している点なども体育科学習の意欲増進に一役買っていると考える。また、保健の学習においては体育専科教員と養護教諭がT.T体制で進めており、児童が自分の心身の健康に高い関心をもてるようになってきている。

学校全体として、学校保健の観点から「姿勢」や「健康な生活」について意識する週間（元気もりもり週間）を設けたり、「びょんびょんタイム（なわとび）」や「らんらんタイム（かけ足）」を計画的に実施したりしている。また、「らんらんタイム」での成果を発揮する場として地域の『瓜破壇園』をお借りしての「かけ足大会」を実施している。さらに、運動場や中庭には「うりチャレ（瓜破東小学校児童チャレンジの略）」と称した様々な運動に親しめる場の設定をしたり、用具を配したりしており、児童が反対と説い合って運動を楽しむ姿が多く見受けられるようになっている。また、各種アスリートによる出前授業により、児童が本物に触れる体験を通して、スポーツの大切さを味わえるようになっている。

本校では昨年度より【特別活動】を重点研究に据えており、高学年を中心とした児童会活動が活発になっている。今後は、この児童会活動を積極的に活用し、教師主体からスポーツ委員会や保健委員会の児童が中心となった〈運動や健康な生活の啓発活動〉が推進できるよう努めていく。